

春日山荘・野尻湖畔寮の開設

一九六一（昭和三十六）年十月、長野県北佐久郡望月町に春日山荘が、同県上水内郡信濃町に野尻湖畔寮が完成し、それぞれ落成式が行われた。

この二つの施設は、翌年四月にオープンしたが、学生教職員の交流の場である大学寮施設としては本学最初のものであった（すでに本学健康保険組合の保養施設として湯河原寮や葉山寮が開設されていたが、教職員用であった）。

当時の寮には、「北蓼科高原に位する春日山荘、野尻湖のほとりに近い野尻湖畔寮は、ともに四季を通じて自然の美しさに包まれた別天地です。ゼミやクラスの旅行、セミナー、親睦旅行など学生と教職員の交流の場として最適です」とある。

また『中央評論』の紹介によれば、春日山荘は白樺湖・蓼科などに近く学生の思索にも静養にも快適の施設、野尻湖畔寮は夏は水泳（現在は一切遊泳禁止）、ポート、



野尻湖畔寮での中大セミナー（1971年）

生・教職員が合宿して大学生活のあり方などについて、の講義や討論、レクリエーションを通して「現代社会の風潮から生ずる学園生活のゆが

冬はスキーに好適な場所とされている。

二つの施設はともに軽量鉄骨仕様木造二階建て、延べ一〇坪で、収容人員は和室・ベッド合わせて七〇人であった。それぞれ浴室、乾燥室、食堂兼ホールがあり、ソフトボール、バドミントン、バレーボールなどができようようになっており、特に野尻湖畔寮には三千坪余りのグラウンドも付属していた。

寮での生活は、朝食は七時半から八時半、昼食は十二時から一時、夕食および入浴は六時から九時、消灯は午後十時と定められていた。寝室の清掃と食事はセルフサービスであった。

施設の利用は学生課が窓口で、使用料金は朝夕二食付き一泊で三〇〇円、昼食は五〇円、他に十一月から四月までは暖房費として五〇円がかかった。六三年の民宿料金の全国平均が一泊二食付きで一、四〇〇円であったことから考えても非常に安価で、多少の交通の不便さは

あっても、学生に非常に喜ばれたことであろう。これらの寮施設は、開設以来ゼミ合宿やクラス旅行などに利用されてきたが、その中でも最大の催しは「中央大学セミナー」である。このセミナーは、六〇年以来学生

みを、いくらかでも緩和し、その内容をよりゆたかにする」という趣旨で始められた。六二年度の中央大学セミナーは初めて両施設を使って、夏休み中に三泊四日を一回として、計一二回開催された。参加者は全体で教職員八四人、学生六〇〇人を数えた。「現代社会と学生」をテーマにして非常に盛り上がったようである。

その後、六五年に奥日光大学の奥日光寮（八五年閉鎖）、七一年には富浦臨海寮が開設された。二〇〇〇（平成十二年六月には、野尻湖畔寮が新しく野尻湖セミナーハウス（二一室、八二人収容）として建て直された。春日山荘は諸般の事情から一〇年三月で廃寮となった。

〇九年二月から一年間の利用状況は、総宿泊数で春日山荘が七八二日、野尻湖セミナーハウスが一、八八八日、富浦臨海寮が二、三三一日であった。学生のレクリエーションも大きく様変わりしてきているとはいえず、野尻湖セミナーハウスや富浦臨海寮は、それぞれ二、五〇〇円、二、〇〇〇円という利用料金（一泊三食付）のためもあり、現在でも学生の活動に少なからざる役割を果たしている。